

研究だより



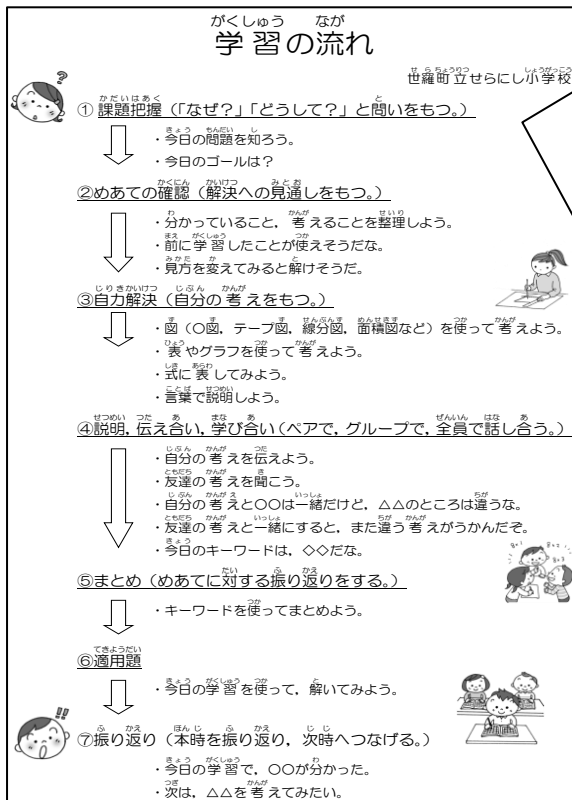
せらにし小学校研修部
平成30年 4月 4日
No. 1

本校が育成を目指す「主体的な学び」・・・児童が「なぜ?」「どうして?」と問いをもち、それらを解決するための見通しをもって課題解決に向けて粘り強く取組み、学習の過程を振り返ることで次への意欲がわく学び。

「主体的な学び」を育むために、授業改善に関わって、意識統一を図りたいと思います。

【重点取組】

☆「課題発見・解決学習」について



①課題設定場面に重点をおく。

- ・生活や他教科との結びつき。
- ・既有知識とのずれ 等

↓
児童に「やってみよう。」「なぜ?」「知りたい」と思わせるような課題を設定しましょう。学力向上には、まず、意欲向上が欠かせません。

②解決への見通しをもたせる。

- ・「今までと同じ方法で解けるかな?」
- ・「前に学習した○○が使えそう。」
- ・「図にかいてみよう。」

↓
既習事項を想起し、それと関連付けながら解決するための方法を考えさせましょう。

★③対話場面を必ず設定する。

↓
根拠をもって自分の考えを伝えられるようにしていきましょう。

「主体的な学び」を育むためには、子どもから「問い」を引き出すことが大事だと思います。子どもから出された「問い」が本時の「めあて」になるようにしていきましょう。子どもたちから「問い」が生まれ、それが「主体的な学び」となれば、「対話的な学び」へつなげるのではないのでしょうか。



【低学年で大事にしたいこと】

- ・生活や他教科の中から課題を設定する。
- ・問題場面のイメージをもたせること。
→場面絵を提示し、イメージをもたせてから問題文を提示する。
- ・半具体物の操作をもとに、図や言葉や式で表させる。
ブロック操作は、ノートに思考過程が残らない。操作活動を大事にしながら、それを絵や図で表現させることで、思考過程を残す。また、○図などで表すことで「早く書ける」「分かりやすい」などの良さを低学年のうちに実感させる。

具体物⇄半具体物⇄抽象

- ・○図からテープ図へ。
→演算決定が簡単になるという良さを味わわせる。
- ・自分の考えを進んで話すことに慣れさせる。
- ・子どもたち同士の関わり合いを育てる。

【中学年で大事にしたいこと】

- ・生活場面や実際に体験したことや他教科から課題を設定する。
- ・問題場面をイメージさせること。イメージをもたせるために、図や表、グラフを使う。
- ・図、表やグラフを用いて説明させる。
→液量図、線分図、数直線、折れ線グラフ、棒グラフ等の活用。
- ・テープ図から線分図へ。
→より手際よく書ける。線分図を活用して、考えたり説明したりさせる。
- ・自分の考えと友達のことを比較させる。

【高学年で大事にしたいこと】

- ・各教科とのつながりを意識した課題を設定する。
- ・問題の内容をイメージすること。
→簡単な絵や線分図、数直線に表すことで、数量関係を把握し、問題の内容をイメージすることができる。
- ・考え方の過程を共有する。

○板書について（昨年度のもの各学級に置いてあります。）

「めあて」→① 「キーワード」→② 「まとめ」→③

「問題」→④ ⑤ 「ふりかえり」→⑥

児童の主体的な学びを促すため、また、思考力・判断力・表現力を育成するための板書カードを活用する。

・対話場面

例) 児童から「例えば」「もし」などの言葉が出されたら、その言葉のカードを黒板に提示することで、児童に意識させる。

・見方・考え方

例) 見通しの場面で、「図を使って」「表を使って」「数直線」などのカードを黒板に提示することで、自力解決できるようにする。また、自分の考えをもつポイントとして、「比較」「分類」などのカードを提示する。まとめの時にも、“今日は、この考え方を使った。”ということが意識できるように使う。

【児童に育成したい資質・能力に関わって】

①「めざすつばき子の姿」を教室内に掲示する。

○次のことを児童の発達段階に応じて説明する。

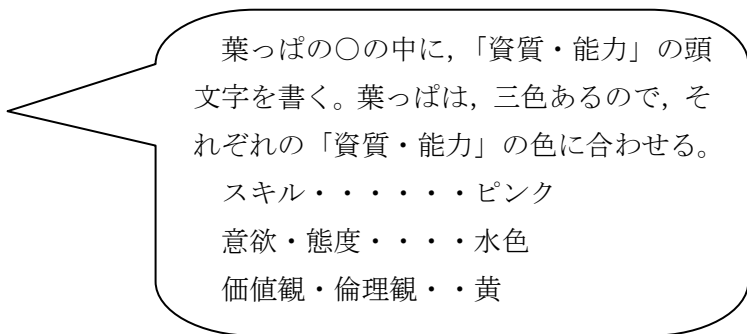
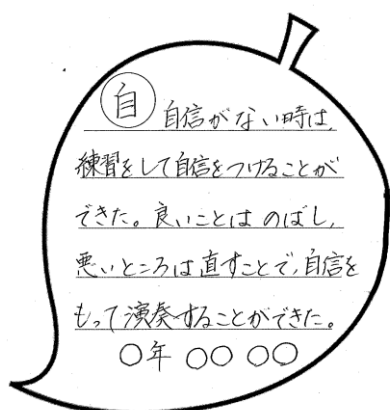
- ・せらにし小学校と世羅西中学校が連携して設定してあるものであることを説明する。
- ・昨年度と変更になっていることを説明する。
- ・各項目について具体例を交えて説明する。
- ・現在、学級で重点的にがんばって欲しいことを説明する。

②「めざすつばき子の姿」「振り返りの視点」「授業の進め方」などが一枚ものになったものでラミネートされたものを授業中、必ず机に出しておき活用させる。どのように活用するか必ず説明する。

※活用の仕方で不明なことがあれば研究部（山崎）に聞いてください。

③「つばき子の木」作成について（1学期中に用紙配布）

○6つの資質・能力のうち、ひとつ選び自分の成長が分かる文章を書く。



○算数科ノートの使い方について（算数の授業開きで確認する。）

日付，単元名を書く。
めあては，赤線で囲む。

① 単位量あたりの大きさ
② こみぐわいを比べる方法を考え，問題の解き方を説明しよう。
どの部屋がいちばんこんでいますか。

	A 室	B 室	C 室
たたみの数	10まい	10まい	8まい
子どもの数	6人	5人	5人

③ AとBを比べる。
たたみの数が同じ
子どもの数は，Aの方が多い。→Aがこんでいる。

④ BとCを比べる。
子どもの数が同じ
たたみの数は，Cの方が少ない。→Cがこんでいる。

⑤ 1あたり

キーワードは，赤線で囲む。

まず，A室は， $6 \div 10 = 0.6$ で1枚あたり0.6人になります。
つぎに，C室は， $5 \div 8 = 0.625$ で，1枚あたり0.625人になります。
たたみ1枚あたりの人数が多いほど混んでいるといえるのでA室よりもC室が混んでいます。

⑥ 子ども1人あたりのたたみの枚数で比べる。
式) ① $10 \div 6 = 1.666\dots$
② $8 \div 5 = 1.6$
A. 子ども1人あたりの枚数が少ないC室が混んでいる。

⑦ どちらが一方と1あたりの量にそろえると比べやすい。

まとめは，青線で囲ませる。

1マス目に線を引く。

③ AとCを比べる。
たたみ1枚あたりの人数で比べる。

④ A室

図の中には，大事な数字や言葉を書き込ませる。

まちがえた場合は，消しゴムは使わず赤で訂正させる。

式) ① $6 \div 10 = 0.6$
② $5 \div 10 = 0.625$
A. たたみ1枚あたりの人数が少ないA室が混んでいる。
B. 多量
③ A室よりもC室の方が混んでいます。
たたみ1枚あたりの人数で比べます。

図をもとに立式させ，時間のある児童には，説明を書かせる。

高学年は，友だちの考えをノートに書かせる。

ノートは，見開きの左ページから書かせる。偶数ページで終わるのが理想だが，右ページが余った場合は，計算や復習などに使わせる。

★分からないことがあったらノートを振り返ってみるような子どもを育てたいと思いま

す。今後、「ノート名人」の掲示を考えています。4月は、ノートの使い方が徹底するように声掛けをしていきましょう。